

平成25年度学校評価総括評価表

自己評価		評価		学校関係者評価	次年度の課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
1 学校運営の充実	<p>(全体レベル)</p> <p>1) 教職員研修の充実を図ることで教職員の資質向上に努め、学校全体の教育力を向上させる。</p> <p>2) 教育環境を整備し、地域や社会の要請を視野に入れた特色ある学校づくりを推進する。</p> <p>3) 広報活動を充実させ、地域に根ざした開かれた学校づくりを推進する。</p> <p>(下位組織レベル)</p> <p>①各種教職員研修の充実</p> <p>①協働精神に満ちた教職員の組織づくり</p> <p>①教職員間の情報活用能力と情報モラルの育成</p> <p>②特色ある学校づくりの推進</p> <p>②学校開放・公開、地域貢献ボランティア活動</p> <p>③マスメディアを活用した広報やホームページの充実、学校行事の公開等、積極的な情報発信</p>	<p>評価指標</p> <p>①-1 各種教職員研修の実施 各学期1回以上</p> <p>①-2 職員共有サーバーの利用、資産持ち出し管理シートの活用 100%</p> <p>①-3 教員間の協力度を計るアンケートを実施する。 目標 70%以上</p> <p>①-4 情報セキュリティに関する規約の遵守並びに教職員全体での意思統一 ウイルスチェック 年 6回以上</p> <p>②-1 地域に向けた開放講座の実施 年間 5回以上</p> <p>②-2 地域貢献並びに地域の保全活動の実施 年間 6回以上</p> <p>③-1 学校ホームページの更新並びにアクセス数の確認 年間100回・年間100,000件</p> <p>③-2 体験入学の参加者数 150名以上 (保護者を含む)</p> <p>③-3 出前授業の実施校 3校以上</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①-1 教職員研修会 11回</p> <p>①-2 職員共有サーバーの利用、教育資産持ち出し管理シートの活用 100%</p> <p>①-3 教員間の協力度 91.9%</p> <p>①-4 情報セキュリティに関する規約の遵守並びに教職員全体での意思統一 ウイルスチェック 年 6回</p>	<p>評価</p> <p>評定 A</p> <p>総合評価 B</p>	<p>①生徒の個人情報等を頻繁に扱うため、特に情報セキュリティ体制の構築を十分に図ってほしい。</p> <p>②学校開放講座は、広報活動の場でもあり、学校での取り組みを広報する良い機会でもあるので、そのビジュアル方法等十分検討してほしい。</p>
		<p>活動計画</p> <p>①-1 各種の教職員を対象とした研修会を実施する。</p> <p>①-2 「報告・連絡・相談」の徹底を図り、教職員間の共通理解を深める。</p> <p>①-2 職員共有サーバーを活用し、校務の効率化を図る。</p> <p>①-3 情報セキュリティポリシーを遵守し、情報漏洩防止を図る。</p> <p>②-1 学校開放並びに学校PR推進のための開放講座を実施する。</p> <p>②-2 地域貢献を兼ねたボランティア活動を推進する。</p> <p>③-1 校務分掌での連携を図り、情報を適時に発信できるようにする。</p> <p>③-2 ホームページの充実を図るとともに新たにPTAモバイル情報発信システムを構築する。</p> <p>③-3 学校紹介並びに学科の特色を伝えるべく中学校に出向いての出前授業を実施する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1 生徒指導、特別支援教育、コンプライアンス推進、教育相談等において研修を実施した。</p> <p>①-2 各種会議や研修会を通じ、職員間の共通理解を図り、「報・連・相」を徹底した。</p> <p>①-2 共有サーバーの活用で、職員・教科間で情報や教材の有効利用を実施した。</p> <p>①-3 情報セキュリティポリシーについては、考査前や研修会の際に確認させ、個人情報等の保護を徹底した。</p> <p>②-1 農・商の特色を活かした開放講座の開設や生徒が講師となった講座の開催等を積極的な学校PRの機会とした。</p> <p>②-2 鴨島駅前ロータリーの美化、江川の保全、宮川内調整池ハブ園の整備など地域の取り組み等に協力的に参加した。</p> <p>③-1 校務分掌間で情報の連絡や伝達を行いネットワークの有効活用を実施した。</p> <p>③-2 学校行事や部活動の活躍などリアルタイムに情報公開を行った。PTAモバイルに関しては、第3回のPTA役員会で導入提案した。</p> <p>③-3 実施できなかった。</p>	<p>(所見)</p> <p>①各種教職員研修も年間を通じ、内容・時期を検討する中で適切に実施でき、教職員の資質向上につながっている。</p> <p>職員の情報モラルは、年々向上し、個人情報等の保護が徹底されている。</p> <p>②地域貢献活動や開放講座、校内農産物販売所の運営等、学校の特色を活かした取り組みにより本校のPRとともに地域に根ざす開かれた学校づくりが推進できた。</p> <p>③ホームページの更新に関しては、リアルタイムで対応できるように、また見やすく充実したものになるよう改善を加えていかなければならない。</p>	

【備考】 評価における「評定」の基準】 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成

平成25年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度の課題と 今後の改善方策	
		評価指標と活動計画	評価			
2 確かな学力の育成	<p>(全体レベル)</p> <p>1) 基礎基本の定着を図り、自己教育力を高める。</p> <p>2) 個性の伸張を図り、専門的な知識・技術を習得させ、スペシャリストを育成する。</p> <p>(下位組織レベル)</p> <p>①基礎学力の向上に向けた取り組み</p> <p>①学校関係者評価アンケートの実施</p> <p>①読書習慣の定着</p> <p>①図書館の魅力の向上</p> <p>②各種資格取得の奨励と補習体制の構築による合格率の向上</p> <p>②体験的・実践的な農業・商業教育の推進</p>	<p>評価指標</p> <p>①-1 学力向上に関する職員研修・教科会の実施 各学期1回以上</p> <p>①-2 学校評価アンケート</p> <p>生徒授業満足度 80%以上</p> <p>職員授業充実度 80%以上</p> <p>保護者学力向上・学習内容充実度 80%以上</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①-1 学力向上に関する職員研修・教科会の実施 年3回実施</p> <p>教員の授業参観率 98% (年2回実施)</p> <p>①-2 学校評価アンケート</p> <p>生徒授業満足度 73.2%</p> <p>職員授業充実度 84.6%</p> <p>保護者学力向上・学習内容充実度 70.2%</p>	<p>評定 B</p> <p>総合評価 B</p>	<p>①アンケートから保護者は、基礎学力の定着や資格取得に力を入れてほしいことがわかった。今後ともこの点の指導を継続し、力を注いでほしい。</p> <p>アンケートについては、企業でも職場の全体像をみて質問内容をかえることで社員のモチベーションも上がり組織強化にもつながるので、是非、学校のアンケートにおいても問いかけの工夫をしてはどうかと思う。</p> <p>様々な活動の中で生徒が主体となり活躍できる場を十分に設定してほしい。</p> <p>図書館利用の増加が学習意欲の発揚に結びつき、基礎学力向上にも反映されると思われるので、しっかり取り組んでほしい。</p> <p>②資格取得の現在の取り組みについては見直し、取得率の向上に取り組んでほしい。</p> <p>商品開発の部分でもいろいろなアイデアを出し取り組まれている。また、e-マーケットの活用も考えるなど販売経路拡大も視野に入れた取り組みがなされており、非常に興味深く感じた。</p> <p>GAPについて、栽培の可視化、安全・安心な農産物の生産を目指す上で有効であり、今後とも推進してほしい。</p> <p>新規事業やプランニング等に関して国や県からの補助については、どうなっているのか。また、民間企業との連携についても模索してほしい。</p>	<p>① 授業参観週間を継続させ、効果的指導事例等の情報交換を積極的に行い、指導力向上授業改善を図る。授業参観率100%とする。</p> <p>読書会の準備や運営を図書委員にまかせることで、読書会への参加者の増加につなげていきたい。</p> <p>さらに細やかに、生徒の興味・関心に応じた図書が揃えられるよう心がけたい。</p> <p>②農業技術検定並びに商業科の各種検定について、補習や長期休業中の課題など合格率向上に向けて取り組みを強化する。</p> <p>外部講師等を活用し、学科の専門性を生かした学校全体で取り組む6次産業等の実践的体験活動を推進する。</p> <p>食ビジネス実習棟を活用し、開発商品の紹介や学びの成果を表現する場としてのカフェをオープンさせる。</p>
		<p>①-3 校内読書会の実施回数と参加者数 6回 120人</p> <p>①-4貸出冊数 2,400冊</p> <p>①-5読書感想文の応募数 250人</p> <p>①-6図書館だよりの発行回数 10回</p> <p>①-7図書館蔵書の満足度 90%</p> <p>①-8図書館入館者数 5,000人</p> <p>②-1</p> <p>[農業]</p> <p>・農業技術検定3級受験率</p> <p>農業科学科, 生物活用科1年</p> <p>受験率:95.0%以上</p> <p>全体合格率:60.0%以上</p> <p>[商業]</p> <p>全商3級1種目以上 取得者100%</p> <p>全商2級1種目以上 取得者70%</p> <p>全商1級1種目以上 取得者30名</p> <p>全商1級2種目以上 取得者10名</p> <p>全商1級3種目以上 取得者10名</p> <p>全商商業経済検定全科目合格 3名</p> <p>日商簿記2級合格 1名</p> <p>ITパスポート合格 1名</p> <p>②-2 学校の持つ特色を生かした新メニュー並びに新商品の開発実施</p> <p>1メニュー・1商品</p>	<p>①-3 読書会6回実施 135人参加</p> <p>①-4 貸出冊数 2,661冊</p> <p>①-5 読書感想文応募数 298人</p> <p>①-6 図書館便り 10回発行</p> <p>①-7 蔵書満足度 82%</p> <p>①-8 図書館入館者数 5,452人</p> <p>②-1</p> <p>[農業]</p> <p>農業技術検定3級</p> <p>農業科学科, 生物活用科1年</p> <p>受験率 88.6%</p> <p>全体合格率 19.6%</p> <p>[商業]</p> <p>全商3級1種目以上取得者 76.4%</p> <p>全商2級1種目以上取得者 21.3%</p> <p>全商1級1種目以上取得者 11名</p> <p>全商1級2種目以上取得者 2名</p> <p>全商1級3種目以上取得者 4名</p> <p>全商商業経済検定全科目合格 0名</p> <p>日商簿記2級合格 0名</p> <p>ITパスポート合格 0名</p> <p>②-2新商品の開発</p> <p>農業：ハミツプリン, GAPによる付加価値化(シャインマスカット)</p> <p>食ビジネス科：カナルマフィン</p>	<p>評定 B</p> <p>総合評価 (所見)</p> <p>①全学年で昨年度の課題テストの平均点を上回っている。教員の授業参観率も昨年度を上回り授業改善への意識が高まった。</p> <p>読書会では、本年度初めて学年別に生徒間での読み聞かせを取り入れたところ、大変好評だった。来年度も是非実施したい。</p> <p>貸出冊数、入館者数共に昨年度より増加し、目標を達成することができた。</p> <p>図書館の利用者増加に伴い、図書館蔵書にも多様性が求められるようになり、蔵書満足度が目標値に達しなかったと思われる。</p> <p>②農業科、商業科ともに検定資格の取得に向けて補習を実施したが、取得率は数値目標を大きく下回った。</p> <p>補習体制や、資格取得に対する生徒の意識付けが弱かったことを反省しなければならない。</p> <p>食品製造の部門において学校養蜂と関連づけた新商品を開発できた。</p> <p>また、食ビジネス科でも特色ある教育が本格的に始まり、商品開発や県のイベント等へ参加する機会が設けられ、生徒の意識が高まった。</p>		
		<p>活動計画</p> <p>①-1「学力・学習状況」改善プランに基づき、基礎学力の向上に向けた取組を実践する。</p> <p>①-2 生徒・保護者・職員を対象とした学校評価アンケート、生徒を対象とした授業評価アンケートを実施する。</p> <p>①-3 校内読書会を実施する。</p> <p>①-4 読書感想文コンクールに応募する。</p> <p>①-5 購入希望図書アンケートを実施する。</p> <p>①-6 図書館を利用した授業を実施する。</p> <p>②-1 資格試験の実施に関して、生徒への周知を徹底する。また、取得率向上に向けて、補習体制を強化する。</p> <p>②-1 専門分野での基礎・基本の定着を図り、積極的な技術習得を推進するとともに上級取得補習、検定前補習や個別指導を適宜行う。</p> <p>②-2 両科の特徴を生かし、新メニュー・新商品開発に向け、連携を図る。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1 課題提出の徹底、週末課題の実施、読書の奨励、補習等を実施し、基礎学力の向上に取り組んだ。結果、テストの平均点に関して目標値をほぼ達成できた。教員の参観授業週間を2回(2週間)実施し授業力向上に努めた。</p> <p>①-2 全校生徒並びに保護者・教職員にアンケート調査を実施し、状況把握に努めた。</p> <p>①-3 校内読書会を実施し、参加者数も目標値を上回ることができた。</p> <p>①-4 1・2年生全員から提出を求め、校内で選考し応募した。</p> <p>①-5 来館者に対しては随時、2学期には全職員、全生徒に希望図書のアンケートを行い購入図書選定の参考とした。</p> <p>①-6 保健や英語の授業を中心に図書館を利用することができた。</p> <p>②-1 資格試験の生徒への周知は徹底することができたが、取得率向上に向けての補習体制の強化については不十分であった。</p> <p>②-2 農産物校内販売所での販売、まなびーあ徳島開放講座、徳島ビジネスチャレンジメッセ等の参加に向け、両科で連携し商品作りに取り組んだ。</p>			

平成25年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価		次年度の課題と今後の改善方策
		評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	総合評価	
3 生徒指導の徹底	<p>(全体レベル)</p> <p>1) 基本的な生活習慣を確立を図り、規範意識や道徳心を高める生徒指導を推進する。</p> <p>2) 教職員の共通理解を図り、保護者、地域社会との連携を密にし、信頼感に満ちた生徒指導を推進する。</p> <p>3) 教職員間での情報の共有化を推進する。</p> <p>(下位組織レベル)</p> <p>①-1 日常的な生活指導による基本的な生活習慣の確立</p> <p>①-2 よりよく生きるための資質の育成(道徳教育)</p> <p>② 保護者、地域社会、関係機関との連携を密にした指導の実践</p> <p>③ 教職員間での情報の共有化並びに連携強化</p>	<p>評価指標</p> <p>①-1 校門での登校指導実施率 100%</p> <p>①-2 校外巡視の実施 週1回以上</p> <p>①-3 頭髪服装一斉指導時における違反率 各学年5%以下</p> <hr/> <p>②-1 生徒指導委員会の決定事項・検討事項の教職員への伝達の徹底 随時</p> <p>②-2 保護者・地域住民のからの苦情や相談の処理を徹底 随時</p> <p>②-3 学年別の情報交換会実施 1回/学期</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①-1 校門での登校指導実施率 100%</p> <p>①-2 校外巡視の実施 年間を通し週1回以上実施</p> <p>①-3 頭髪服装一斉指導時における違反率 1学年平均 4.1% 2学年平均 7.6% 3学年平均 8.3%</p> <hr/> <p>②-1 生徒指導委員会の決定事項・検討事項の教職員への伝達の徹底 ほぼ伝達できた</p> <p>②-2 保護者・地域住民のからの苦情や相談の処理については随時適切に処理した。</p> <p>②-3 学年別の情報交換会実施 3回実施</p>	<p>評定</p> <p>B</p> <hr/> <p>B</p>	<p>総合評価</p> <p>B</p> <hr/> <p>(所 見)</p> <p>①基本的な生活習慣の確立や規範意識を醸成するため、頭髪・服装指導、遅刻指導、清掃指導の徹底に努めてきた。ネクタイ・リボンの着用についてはだらしのない生徒もおり、常時指導をしているところである。頭髪については保護者の理解も得られ毎月の指導が徹底されている。</p> <p>遅刻指導では、各クラスで遅刻率を1.5%以内にするという数値目標を設定したが、達成できたクラスは半分以下にとどまった。</p> <p>廊下階段等にゴミが落ちていたり、一部の生徒に規範意識に欠ける行動も見られた。</p> <p>②平日頃の課題や問題点について全教職員の共通理解のもと、問題解決に取り組んでいかなければならない。</p>	<p>①遅刻・欠席については、社会人としてシビアに評価される部分であり、その意識付けを明確にするための取り組みを考えてほしい。</p> <p>②生徒指導の充実を図るには保護者との連携を密にし、協力体制の構築を進めてほしい。</p> <p>①新高校2年目を迎える生徒の問題行動も半減し、学校生活にも落ち着きが見られる。さらに関係機関とも連携し、きめ細やかな指導を徹底することで、問題行動の未然防止に努める。</p> <p>基本的な生活習慣の確立は実社会では不可欠である。専門高校としての使命と、生徒の将来を見据えた生徒指導が日々実践できるよう生徒指導課を中心に、教職員が一丸となって取り組んでいきたい。</p>
		<p>活動計画</p> <p>①-1 毎朝校門で頭髪・服装指導を中心とした登校指導を実施する。</p> <p>①-2 生徒指導課を中心とし、毎月1回、学校安全の日を実施するとともに登下校時に鴨島駅周辺での立哨指導も週1回は行う。</p> <p>①-3 生徒指導課を中心とし、毎月1回、全校集会時に頭髪服装検査を行い、事後指導・継続指導を徹底する。</p> <p>①-4 遅刻(授業・学校行事も含む)をした生徒に対し、遅刻カードへの記入を徹底させる。また、遅刻の続く生徒に対し、生徒課・各学年団で長期休暇中に遅刻指導を行う。また、家庭との連絡を密にし保護者との協力体制を整える。</p> <p>①-5 ホームルーム担任・教科担任による遅刻カードによる指導の徹底を図る。</p> <p>②-1 担任・学年主任による積極的な家庭訪問を実施する。</p> <p>②-2 教頭・生徒課長による各関係機関への定期的な訪問を行い、連携体制を整える。</p> <p>②-3 定期考査・総体・長期休業中に校外巡視を実施し問題行動の防止や安全教育の啓発を行う。</p> <p>②-4 保護者や地域住民・補導センター等の苦情や相談に対して迅速かつ誠実に対応する。</p> <p>③-1 年度初めには学年別に情報交換会を行い生徒の家庭環境や学校生活に関する状況を共有する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1 毎朝校門で登校生徒に声をかけ、頭髪・服装指導を中心とした登校指導を実施した。</p> <p>①-2 学校安全の日に保護者も参加し登校指導を行った。登下校時に鴨島駅周辺での立哨指導も週1回程度行い、通学マナーの向上等に努めた。</p> <p>①-3 毎月1回、全校集会時に頭髪服装検査を行い、事後指導・継続指導を徹底した。</p> <p>①-4 遅刻(授業・学校行事も含む)をした生徒に対し、遅刻カードへの記入を徹底させた。遅刻の続く生徒に対し、生徒課・各学年団で長期休暇中に遅刻指導を行ったり、家庭と連絡を密にし保護者との協力体制を整えたりしながら遅刻者の減少に努めた。</p> <p>①-5 ホームルーム担任・教科担任による遅刻カードによる指導の徹底を図ったが徹底するにはいたらなかった。</p> <p>②-1 担任・学年主任による積極的な家庭訪問や三者面談、四者面談を実施し、保護者への説明を徹底した。</p> <p>②-2 教頭・生徒課長が定期的に警察や補導センターを訪問し、情報交換を行いながら連携体制を整えた。</p> <p>②-3 定期考査・総体・長期休業中に校外巡視を実施し問題行動の防止や安全教育の啓発を行い、事故の防止に努めた。</p> <p>②-4 保護者や地域住民・補導センター等の苦情や相談に対して迅速かつ誠実に対応することができた。</p> <p>③-1 年度初めには学年別に情報交換会を行い、生徒の家庭環境や学校生活に関する状況を共有できるよう努め、進路指導や教科指導にも活かすことができた。</p>			

【備考】評価における「評定」の基準 A:100%達成 B:80%以上達成 C:80%未満~70%以上達成 D:70%未満~60%以上達成 E:60%未満達成

平成25年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度の課題と 今後の改善方策		
		評価指標と活動計画	評価				
4 人権教育並びに 特別支援教育の推進	<p>(全体レベル)</p> <p>1) 普遍的・個別的な観点から学校教育全をとおしての人権教育の推進する。</p> <p>3) 特別支援教育を推進し、個々に応じた支援を行う。</p> <p>(下位組織レベル)</p> <p>① 人権学習ホームルーム活動の充実</p> <p>② 人権啓発活動の充実 (人権映画会の上映)</p> <p>② 人権教育教職員研修の充実</p> <p>③ 教育相談体制の充実</p> <p>③ 特別支援の計画策定及び関係機関との連携</p>	<p>評価指標</p> <p>①-1 人権学習ホームルーム実施回数 年5回</p> <p>①-2 人権学習ホームルーム活動についての生徒の満足度 70%以上</p> <p>②-1 人権映画の実施 年1回</p> <p>②-2 人権映画会についての生徒の満足度 80%以上</p> <p>②-3 生徒の人権啓発活動への参加</p> <p>1) 中・高生による人権交流集会の参加 延べ人数20名以上</p> <p>2) 文化祭展示用ポスター・標語・書道 (作品1年生全員提出)</p> <p>3) 人権の日の人権教育推進委員による (啓発活動回数年11回)</p> <p>②-4 人権教育教職員研修の実施回数 年3回</p> <p>②-5 “あわ”人権学習ハンドブックの活用 年5回以上</p> <p>③-1 教育相談教職員研修の実施回数 年2回</p> <p>③-2 こころと体の健康カードの活用 年2回</p> <p>③-3 カウンセリング室の開放 週1回</p> <p>③-4 特別支援教育研修会実施回数 年3回</p> <p>③-5 就労体験の実施 延べ5名以上</p> <p>③-6 二者面談・三者面談に同席 (適宜)</p> <p>③-7 特別支援教育関係機関との連携・相談</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①-1 人権ホームルーム 年間5回実施</p> <p>①-2 生徒の満足度 64.1%</p> <p>②-1 1回実施 題名「ひまわり」</p> <p>②-2 生徒の満足度 96.6%</p> <p>②-3</p> <p>1) 人研交流会参加数人数 延べ28名</p> <p>2) 2学期提出確認 全員提出</p> <p>3) 啓発活動回数 年8回実施</p> <p>②-4 職員研修実施数 2回実施</p> <p>②-5 ハンドブック活用数 5回活用</p> <p>③-1 職員研修会 年1回実施</p> <p>③-2 健康カードの活用 年2回実施</p> <p>③-3 カウンセリング室開放 週1回実施</p> <p>③-4 研修会実施数 3回実施</p> <p>③-5 就労体験実施数 7名実施</p> <p>③-6 面談での同席回数 64回</p> <p>③-7 連携・相談回数 126回</p>	<p>評定</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>B</p>	<p>総合評価</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <p>①人権学習ホームルーム活動では、人権についてさまざまな視点から学び、お互いの意見を尊重しながら良好な人間関係を築く活動となっている。</p> <p>②人権教育では、人権映画鑑賞・吉高祭での人権作品展示・中・高生による人権交流事業への参加などを通し、生徒の人権意識が高められた活動となった。</p> <p>③「カウンセリング室の開放」や「人権の日の啓発活動」・「こころと体の健康調査」に継続して取り組むことにより、充実した活動となるよう努めた。</p> <p>教育相談教職員研修会を開き、全職員の生徒に対する共通理解を図ることにより、生徒一人ひとりに適切な支援や指導がなされる一助となっている。</p> <p>特別支援教育では、学習支援教室やSST教室を実施し、基礎学力やコミュニケーション能力の向上に努めることができた。また、保護者・外部連携機関と連絡を密に取り、生徒の進路実現を支援することができた。</p>	<p>①今日のような時代背景の中で生徒に対し、人権教育を推進していくことの大変さを理解することができた。アンケート結果からも生徒が本校の人権教育に対する満足度の高いことに感心した。</p> <p>③生徒が利用しやすいカウンセリング室を目指して、その活用方法を検討してほしい。</p> <p>最近の若者はストレスをためやすく弱い。そのため、メンタル面で苦しいとき、そのストレスをうまく解消していく対処方法を教職員が学び、学校生活に取り入れてほしい。</p>	<p>①学年主任との連携を図り、学年の状況等を把握したうえで、適切で使いやすい人権学習HR活動の指導案や資料を作成する。</p> <p>②人権委員による「人権の日」の啓発活動を引き続き実施し委員会活動の活性化を図る。</p> <p>③「カウンセリング室開放日」を設け「こころと体の健康調査」を継続して実施する。生徒が利用しやすいカウンセリング室を目指して各クラスの教室に案内のパンフレットを掲示したり、保護者に案内の文書を配布し協力を得る。</p> <p>特別支援教育に対する教職員の理解をすすめる、研修会だけではなく、ケース会議を積極的に行える校内支援体制を作る。</p> <p>福祉就労先の企業開拓に学校独自でも取り組む。</p>
		<p>活動計画</p> <p>① 主事と学年主任・担任との連携を図る。</p> <p>②-1 人権映画鑑賞により人権意識を高める。</p> <p>②-2 人権問題の実態から学ぶ研修を実施する。</p> <p>③-1 カウンセリング室利用による生徒個々の状態を把握し、生徒が相談しやすい環境作りに努める。</p> <p>③-2 特別支援教育の理解を進めるため、研修会を実施する。</p> <p>③-2 みなと高等学園他、関係機関との連携相談を図る。</p> <p>③-3 学習支援員・教科担任と連携を深め、特別な支援を必要とする生徒の個別の指導計画を作成する。</p> <p>③-4 特別な支援が必要な生徒に対しての相談活動を推進する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>① 人権学習ホームルーム活動の指導案作成等で連携を図った。</p> <p>②-1 2学期に実施し、人権意識高揚に繋がった。</p> <p>②-2 鳴門市での研修に参加し、郷土の歴史から人権擁護の意義について学んだ。</p> <p>③-1 カウンセリング室での相談が少ないため、2学期にカウンセリング室開放日のパンフレットを教室に掲示し呼びかけた。</p> <p>③-2 内容的にも充実した研修会が実施できた。</p> <p>③-2 関係機関を含め連携を積極的に行った。</p> <p>③-3 3名の生徒の個別の指導計画を2学期に作成し、これに基づき支援を行った。(3学期も作成予定)</p> <p>③-4 特別な支援が必要な生徒に対し相談会議等を随時実施した。</p>				

【備考】 評価における「評定」の基準】 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成

平成25年度学校評価総括評価表

自己評価				学校関係者評価		次年度の課題と今後の改善方策		
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見			
5 進路指導の充実	(全体レベル) 1) 一人ひとりの個性や能力を伸ばす教育を行い、夢の実現に向けて努力する生徒の育成に努める。 2) 豊かな人間性や共生の心を培い、人権を尊重し、民主的で自他の敬愛と協力を重んずる精神の育成に努める。 3) 農業・商業にかかわる幅広い産業に対応した実践力を身につけ、地域の発展に貢献できる職業人の育成に努める。 (下位組織レベル) ① 望ましい勤労観・職業観の育成 ② 生徒理解を深め個に応じたきめ細やかな進路指導の徹底 ③ 進路開拓を推進する	評価指標 ①-1 外部講師招聘回数 3回 ①-2 校内・校外ガイダンス実施 各3回 ①-3 オープンキャンパス参加者率 100% ①-4 進路補習実施日(夏休み) 7日 9月7日間 10月以降随時 ①-5 企業見学の実施 15事業所程度 ①-6 内定後のインターンシップの実施 7事業所程度 ①-7 1・2年進路情報の提供3回程度	評価指標の達成度 ①-1 外部講師招聘回数 3回 ①-2 校内・校外ガイダンス実施各3回 ①-3 オープンキャンパス参加者率 100% ①-4 進路補習実施日 夏休み7日間 9月7日間 ①-5 企業見学の実施 20事業所 ①-6 内定後のインターンシップの実施 7事業所 ①-7 1・2年進路情報の提供 3回	評価 A	総合評価 A (所見) ①適性検査やSPI試験対策なども取り入れ、進路補習をさらに充実させた。また、前もって練習することで効果があったとの声が寄せられた。 SPI試験の内容を3年生の実力テストに導入した。就職試験に関する基礎的な学力をはかることができ、同一試験による選考データをつくることができた。 ③進路選択において必要に応じ保護者との面談が行われているが、必要な情報が保護者に周知できるよう工夫することが大切だと感じている。	①叱られることへの理解ができない若者が増えており、是非とも人間関係の構築が図れるような取り組みをしてほしい。 定着率の問題からインターンシップを積極的に進め、離職防止に繋がるよう努めてほしい。 将来の進路を見据え、それぞれの学科の特徴である専門性を活かした教育の実践を継続してほしい。	①企業は、就職試験の可否に面接以外の部分を重要視する傾向にある。SPI・クレペリン検査等についても対策を講じる。 1年次から、HRや集会などを通して、学年ごとの綿密な計画に基づきキャリア教育の推進に取り組んでいかなければならない。 ③就職希望が多くなる傾向にあり、さらに企業とのつながりを密にし就職先の確保に努める。 教員の就職指導に関する力量を高めるための研修を充実させる。また、企業へ出向く教員を増やし、企業が求める人材等についての理解が深まるよう取り組む。	
		活動計画 ①-1 外部講師の活用(ビジネスマナー講座を含む)を図る。 ①-2 分野別、職業体験型、就職・進学説明会を実施する。 ①-2 進学希望者に奨学金の説明をする。 ①-3 校外の進路説明会・オープンキャンパス・会社見学・職場体験を実施する	活動計画の実施状況 ①-1 5月「元氣塾」森健次朗氏による講演会を開催した。また、8月に3年就職希望者対象に外部講師4名により個別指導形式のガイダンスを実施した。 ①-2 10月に体験型進路ガイダンスを実施、2月には1・2年生を対象にガイダンスを実施した。 就職希望：ビデオ講話「新路ブック生き方を考える」 進学希望：校種別の講師による説明 ①-2 2月 奨学金の説明を開催した。 ①-3 オープンキャンパスや就職応募前会社見学に参加し、生徒自らが進路情報の確認を行った。 (応募前会社見学 20社 延べ46人)	B A	②-1 保護者説明会の実施回数 2回 面談実施回数(担任) 各人2回以上 ②-2 進路資料室の利用 6クラス ②-4 特別支援相談回数(外部機関) 4回程度 ③ 企業訪問実施 年間200事業所	②-1 保護者説明会の実施 2回 面談実施回数(担任) 生徒一人あたり2回 ②-2 進路資料室の利用 6クラス ②-4 特別支援相談回数(外部機関) 2回 ③ 企業訪問実施 5・6月 169社 7月以降 60社 企業訪問教員数 20人	②-1 PTA総会時、保護者対象の進路ガイダンスを実施した。 ②-2 「進路のてびき」を、LHR・学年集会で活用した。提出書類の作成でも参考として活用した。 ②-3 SPI試験を取り入れた実力テストを実施し、就職に関する基礎的な学力をはかることにした。 ②-4 支援が必要な生徒1名に対し、外部機関を本人・保護者に紹介した。 ③ 積極的に新規企業を訪問し求人開拓にあたった。(新規求人は5社)	②-1 各種行事の中で保護者対象の進路ガイダンスを計画する。 ②-2 「進路のてびき」の十分活用し、3年生進路決定に向け、充実を図る。 ②-3 課題テストの新問題集に対して検討をし、小テストにより基礎学力向上を図る。 ②-4 支援が必要な生徒に対し、外部機関を本人・保護者に紹介し、進路を進める。 ③ 新規企業訪問を実施し、開拓する。
		備考	備考	備考	備考	備考	備考	備考

【備考】評価における「評定」の基準】 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成

平成25年度学校評価総括評価表

自己評価			学校関係者評価		次年度の課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		
6 活力ある特別活動の推進	<p>(全体レベル)</p> <p>1) 生徒会活動・ホームルーム活動・学校行事の活性化を図る。</p> <p>2) 1年生の部活動全員加入による部活動の活性化を図る。</p> <p>3) 地域の環境整備の活性化を図る。</p> <p>(下位組織レベル)</p> <p>① 生徒会活動、ホームルーム活動の活性化を図る。</p> <p>① 学校行事の活性化</p> <p>② 部活動の活性化と学校リーダーの育成</p> <p>③ 農業クラブ活動の活性化</p> <p>③ 自然保護の視点に立った地域に根ざした環境整備活動の推進</p>	<p>評価指標</p> <p>①-1 生徒会活動に対する満足度 70%</p> <p>①-2 あいさつ運動実施 10回</p> <p>①-3 ホームルーム活動の充実度 70%</p> <p>①-4 各種委員会の充実度 70%</p> <p>①-5 学校祭の満足度 75%</p> <hr/> <p>②-1 部活動加入率 1年100%, 2・3年70%</p> <p>②-2 各部主将・部長会 年2回以上</p> <p>②-3 各科での取り組みと目標 (商業)</p> <p>情報処理競技会・珠算競技大会・電卓競技会・ワープロ競技会・簿記コンクール・意見発表発表大会・商業研究発表・簿記新人大会 3位以内</p> <p>(農業)</p> <p>農業クラブ県大会出場種目・区分において最優秀賞受賞2部門以上</p> <p>押し花アート、フラワーアレンジメント等のコンクール出展</p> <p>全国入賞：1作品以上 県内入賞：5作品以上</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①-1 生徒会活動 満足度 63.5%</p> <p>①-2 あいさつ運動実施 17回</p> <p>①-3 ホームルーム活動 充実度 64.1%</p> <p>①-4 各種委員会 充実度 63.5%</p> <p>①-5 学校祭 満足度 76.5%</p> <hr/> <p>②-1 部活動加入率 1年100%, 2・3年69%</p> <p>②-2 各部主将・部長会 年1回実施</p> <p>②-3 各科での取り組みと目標 (商業)</p> <p>各競技会において、目標値を超える結果を残すことができなかった。</p> <p>全商英語スピーチコンテスト スピーチの部 最優秀 プレゼンテーションの部 優秀</p> <p>簿記新人大会 第2位 (農業)</p> <p>各プロジェクト発表2部門、意見発表2部門の計4部門が最優秀賞を受賞した。</p> <p>各全国大会奨励賞1作品、県内(放美展及び手工芸展)7作品が入選した。</p>	<p>評価</p> <p>総合評価 B</p> <p>(所見)</p> <p>① 新生徒会長のリーダーシップのもと、連携がとれていたこと、また意欲的に全ての行事に多くの生徒が参加できていた。</p> <p>学校安全の日に生徒会役員全員による「あいさつ運動」を実施。登校して来る生徒一人一人に丁寧なあいさつを心掛けていた。</p> <p>学校祭については、長期間にわたり生徒会長を中心に準備作業をおこない、当日も、それぞれの仕事をしっかりとやりきっていた。</p> <p>今後は、生徒会役員が自主的に計画し、実践する活動へとレベルを上げていくよう指導する。</p> <p>② 活動内容はそれぞれ異なるが部活動が少しずつ活発になってきている。</p> <p>農業科の四国大会においてもおおむね評価が高く、プロジェクト発表については継続的な研究が求められる。</p> <p>押し花アートの作品づくりを通して本校の特色ある教育を各方面に広報することができた。</p> <p>また、作品依頼等もあり、今後の活動に大きな励みとなった。</p> <p>地域の環境整備や美化活動も一部が担当することなく、学校全体として取り組めるようになってきた。</p>	<p>学校関係者の意見</p> <p>① 特別活動の満足度が高いのは大変良いことであり、その中でもあいさつ運動等に積極的に取り組まれていることは非常に興味深く、企業としても社員の士気を高めるためには是非取り入れたい。</p> <p>② 部活動の入室率も増加しており、学校としての活性化が図られている。今後も継続してほしい。</p> <p>女子の体育系部活動への入室率が下がっているので対策を講じる。</p> <p>多様な生徒への対応等の配慮が増え、活動にも影響がみられる。特色ある教育を展開するうえで活動の精選が必要である。</p> <p>押し花アート作品の商品化を目指し産学官連携を推進したい。</p> <p>地域の環境整備や美化活動など地域貢献への取り組みを生徒が主役となった活動になるよう計画するとともに、継続的な活動として推進したい。</p>
		<p>活動計画</p> <p>①-1 生徒が自発的に活動し、学校生活の充実や改善ができるよう指導する。</p> <p>①-2 あいさつ運動を実施する。</p> <p>①-3 各代表生徒を中心に生徒が主体となった活動を実施する。</p> <p>①-4 生徒会を中心に企画立案した学校祭を開催する。</p> <p>②-1 商業系部活動で部員を積極的に勧誘し活性化と専門性を深める指導を行う。</p> <p>②-2 プロジェクト発表及び意見発表について、専任の教員が担当する。</p> <p>②-3 各部による活発な競技活動の展開を目指す。</p> <p>②-4 女子運動部の入室率を向上させる。</p> <p>②-5 各部主将・部長を中心にルール・マナーの向上を指導させる。</p> <p>②-6 部活動紹介や勧誘方法を工夫する。</p> <p>②-7 各顧問等の指導によりアグリクラブでの質の高い作品作りを展開する。</p> <p>③-1 鴨島駅周辺・通学路の清掃活動を実施する。</p> <p>③-2 各環境委員を中心に地域の方と連携し、江川周辺の環境整備活動を実践する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1 学校行事等では生徒会を中心に積極的に活動できた。</p> <p>①-2 生徒会役員全員で挨拶運動を実施した。</p> <p>①-3 各部とも積極的に一年を通して活動でき、運動部の成績が上がった。</p> <p>①-4 生徒会を中心に企画・立案・準備作業をおこない開催した。</p> <p>②-1 商業系部活動で部員を勧誘することができ専門性を深める指導ができなかった。</p> <p>②-2 専任の教員が担当をして、県大会・四国大会で成果をあげた。</p> <p>②-3 各競技とも練習試合等を頻繁に取り入れるなど、部活動の活性化に努めた。</p> <p>②-4 女子入室率は上がっていない。</p> <p>②-5 夏期休業前に各部代表を集め、目標を持って活動するよう各部主将・部長会を開催した。</p> <p>②-6 新入部員の勧誘について昨年度の反省を生かした工夫ができなかった。</p> <p>②-7 押し花アート作品については、生徒の創造性豊かでハイクオリティな作品製作ができ、周囲の評価も高かった。</p> <p>③-1 夏期休業中にラグビー部で鴨島駅周辺・通学路の清掃活動実施した。</p> <p>③-2 アグリクラブや農業科2年草花専攻生を中心に江川に隣接した花壇整備を春・秋(年2回)実施した。</p>		

【備考】 評価における「評定」の基準】 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成

平成25年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価		学校関係者の意見	次年度の課題と今後の改善方策
		評価指標と活動計画	評価指標の達成度	評価	総合評価		
7 防災・環境教育の推進	<p>(全体レベル)</p> <p>1) 自他の生命を尊重し、健康の保持増進と安全・防災意識の高揚を図る。</p> <p>2) 学校版環境ISO認定校として実践を推進する。</p> <p>3) 食の安全・安心の観点からの教育を推進する。</p> <p>(下位組織レベル)</p> <p>①安全教育の充実</p> <p>①効果的な防災教育の計画・実践</p> <p>①有効適切な防災避難訓練の企画と展開</p> <p>①適切な保健管理</p> <p>①自己の健康管理能力の育成</p> <p>①適切な健康相談活動</p> <p>②節電・節水・ゴミの分別の徹底</p> <p>②校内の美化</p> <p>②正しい農薬散布の徹底と事故防止</p> <p>③食育の実施</p>	<p>評価指標</p> <p>①-1 防災に関する情報提供 月1回</p> <p>①-2 避難訓練 年2回実施</p> <p>①-3 保健だよりの発行 10回</p> <p>①-4 各種講演会の実施 (各1回)</p> <p>・性教育講演会</p> <p>・喫煙防止教育講演会</p> <p>・心肺蘇生法講習会</p> <p>・熱中症対策講習会</p> <p>①-5 健診結果通知後の受診率 90.0%</p> <p>①-6 心身の健康に関する保健調査</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①-1 防災に関する情報提供 月1回</p> <p>①-2 避難訓練 年2回実施</p> <p>①-3 保健だよりの発行 10回</p> <p>①-4 各種講演会の実施</p> <p>・性教育講演会 1回</p> <p>・薬物乱用防止教室 1回</p> <p>・心肺蘇生法講習会 1回</p> <p>・熱中症対策講習会 1回</p> <p>①-5 健診結果通知後の受診率 75.0%</p> <p>①-6 保健調査 2回</p>	<p>評定</p> <p>A</p>	<p>総合評価</p> <p>B</p>	<p>①社会人になると効率よい防災教育が適切にできにくいので、高校生のうちにしっかりと知識を身につけておけることは、企業としては大変ありがたい。また、地域連携を密にする中で、防災・環境教育の推進を図ってほしい。</p> <p>②学校版環境ISO等の学校の環境教育に対する取り組みについても十分生徒に理解させてほしい。</p> <p>節電・節水等の省エネ対策については学期ごとにその取り組み状況がわかるようにグラフ化し、生徒の関心度を高めてほしい。</p> <p>③減農薬栽培の取り組みについても商業ベースでは農薬抜きの栽培は考えられない。「なぜ、農薬を減らした方がいいのか」という理由をしっかりと学び理解していなければ、いざ社会に出た時にそのギャップ苦しむのではないか。そのためにも、食育にしっかりと取り組んでほしい。</p>	<p>①いつ起こるか分からない南海トラフ巨大地震に対応できる防災力が十分身につけていないことが課題である。</p> <p>いろいろな時間帯・様々なシチュエーションで避難訓練を実施し真剣にかつ迅速に取り組めるように考える必要がある。</p> <p>さらに校外でもその時々には的確な判断を下し、命を守っていくための行動がとれるような指導が大切である。</p> <p>健康診断の結果、所見のあった者について、必要性を理解させ受診できるように働きかけていきたい。</p> <p>②美しい環境の中で学校生活を送れるようにすることが課題であり、中でも生徒の環境に対する意識向上を図る必要がある。特に、清掃活動に生徒全員が取り組めるよう、全職員の協力を得ながら進めていきたい。</p> <p>病害虫防除について、生物的並びに物理的防除を積極的に取り入れ、減農薬化を推進する。</p> <p>③給食センターへの農産物納品は、地産地消の観点から今後も継続実施したい。</p> <p>P T A 研修や家庭クラブ講習会に、より多くの方が参加できるように研修内容や日程の工夫をして、食育を推進する。</p>
		<p>②-1 電気・水道の使用量が、前年度を下回る。</p> <p>②-2 毎日の清掃を積極的に取り組んでいる。 80%以上</p> <p>②-3 学校は美しい環境が保たれている。 80%以上</p> <p>②-4 毒劇物農薬使用の軽減 前年度比50%削減</p>	<p>②-1 電気の使用量が、前年度を上回ってしまった。水道の使用量は夏に前年度を上回ってしまった。</p> <p>②-2 毎日の清掃を積極的に取り組んでいる。 61.0%</p> <p>②-3 学校は美しい環境が保たれている。 69.0%</p> <p>②-4 毒劇物農薬使用の軽減 前年度比75.0%削減</p> <p>野菜、草花部門農薬使用率 0%</p>	<p>B</p>	<p>(所 見)</p> <p>①4月に避難場所や避難経路の確認を各HRで行った。特に新入生にとっては学校の施設に慣れていない早い段階で確認ができ良かった。</p> <p>健康診断の結果通知とともに、有所見者への受診勧告も行った。</p> <p>心電図、尿検査など緊急性の高いものについては受診率が高いが、肥満傾向、歯科などは低い傾向があった。</p> <p>②生徒昇降口に月別使用量をグラフ化して、昨年度と比較し掲示したが、電気・水道使用量が昨年を上回ったことは残念だ。何か方策を考えていきたい。</p> <p>学校環境については職員と生徒との意識差がずいぶんとあった。生徒は校舎の古さから評価したように思われる。</p> <p>減農薬栽培を推進し、地域に安全・安心な農産物を提供できた。</p> <p>③食育通信発刊と同時に教室掲示、保護者へ送付、ホームページ掲載等でPTA研修や家庭クラブ講習会の活動の様子も含めて、食の重要性を呼びかけ、簡単レシピの紹介ができた。</p>		
		<p>活動計画</p> <p>①-1 防災計画を周知徹底すると共に、防災情報を提供する。</p> <p>①-2 防災訓練の実施及び避難経路・避難場所の確認をする。</p> <p>①-3 保健だよりを発行する。</p> <p>①-4 各種講演会を実施する。</p> <p>①-5 健診を受診させ結果通知を行う</p> <p>①-6 保健調査を実施し心身の健康 問題を把握する。</p> <p>②-1 節電・節水の呼び掛けを行う。</p> <p>②-2 毎日HR日誌にエコチェック記入をする。</p> <p>②-3 クリーンディの実施と環境美化委員会による清掃活動を行う。</p> <p>②-4 適正な農薬散布を徹底する。</p> <p>③-1 地産地消並びに食の安全・安心の観点を踏まえた農産物の提供を行う。</p> <p>③-2 食育通信を発行し、生徒・保護者へは文書とホームページ上で食育の啓発を行う。</p> <p>③-3 食育講演会やP T A 研修活動・家庭クラブ活動で食育に関する講習会を計画し食事の重要性を呼びかける。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1 防災計画を周知し、防災情報を提供できた。</p> <p>①-2 防災訓練を9月26日実施した。避難経路・避難場所の確認を4月当初に行った。緊急地震速報訓練時には机の下に身を守る訓練を行った。</p> <p>①-3 長期休業を除く毎月保健だよりを発行した。</p> <p>①-4 健康、安全等に関する講演会を実施した。</p> <p>①-5 健康診断終了後、個々に結果通知を行った。</p> <p>①-6 保健調査を実施し生徒一人ひとりの健康課題の把握に努めた。</p> <p>②-1 節電・節水ポスターを制作・啓発した。</p> <p>②-2 どのクラスも毎日HR日誌にエコチェック記入ができた。</p> <p>②-3 クリーンディを月1回実施できた。また、環境美化委員会による清掃活動を行った。</p> <p>②-4 減農薬栽培を推進できた。</p> <p>③-1 阿波市の給食センターへ安全・安心野菜を定期的に提供した。</p> <p>③-2 食育通信を年間2回発刊できた。</p> <p>③-3 P T A 研修会 (1回)、家々研修 (3回) を実施し、食育の重要性を伝えた。</p>				